

図書館だより

第5号

奈良情報商業高等学校 令和元年9月発行

秋の野に 咲きたる花を 指折り (およびをり)
かき数ふれば 七種 (ななくさ) の花
萩 (はぎ) の花 尾花 (おばな) 葛花 (くずばな)
瞿麦 (なでしこ) の花 姫部志 (をみなへし)
また藤袴 (ふじばかま) 朝貌 (あさがお) の花
山上 憶良 (やまのうえのおくら) <万葉集・巻八 >

秋の七草を皆さんいくつ
知っていますか？



オーサー 藤本拓也先生 おすすめ本

東京から来てくださった藤本拓也先生に今まで読んだ本 (ビジネス関係以外) の中で、印象に残っている本を事前にお伺いしました。



木谷司書が藤本先生ご推薦の本を紹介した

『華氏451度』 レイ・ブラッドベリ著 ハヤカワ文庫

夏休みの宿題となっていた読書感想文の課題図書として、半ば強制的に読んだ本ではありますが、当時、読書の習慣があまりない自分でも、「いざ、本がなくなり、ポーッとテレビを見るだけになるとどうなるのか」と少し怖い思いをした1冊。

『希望の国のエクソダス』 村上龍著 文藝春秋

「この国には何でもある。本当にいろいろなものがあります。だが、希望だけがない」というフレーズが宣伝文句になっているのに惹かれて、大学時代に読んだもの。全国の中学生が一斉に不登校になるというエピソードなので、なかなか学校の図書室で胸を張ってお勧めするには難しいテーマかもしれませんが、内容もかなり難しいものではあります。ただ、「大勢の大人が考える普通の希望」だけが学生にとっての理想なのかということを強烈に問いかけるストーリーが強く印象に残っており、今思い返しても2000年ごろに書かれたという古さを感じさせない1冊。

オーサー・ビジットを開催しました！

オーサー・ビジットとは本の著者 (オーサー) が学校を訪ねて特別授業をすること。

日時：令和元年7月25日 (土) 11時～12時 場所：図書室

講演：♡『商業高校から一橋大学に入って公認会計士試験に合格した話』

(とりい書房)の著者 藤本拓也氏

商業高校から一橋大学へ進学し、文系の国家試験の最高峰ともいわれる公認会計士試験に合格するまでのことや、商業科目を学ぶ意義や簿記試験に臨むにあたって大事なことをお話していただいた。

「これからの社会で必要なことは〈簿記・英語・IT (情報)〉です。

これら全てを学べるのは商業高校だけです。」

「読解力をつけることは大切です。」

♡ネットスクール株式会社社長 桑原知之氏

日商簿記1級や公認会計士を目指す生徒たちへ激励していただいた。

「チャンスには順番あり。一步前に出てチャンスをつかめる人になりましょう。

分からないからやらないはダメ。分からないを前提に授業に臨みましょう。」



サイン会もしていただき、とても有意義な講演でした！

『おとなの教養 私たちはどこから来て、どこへ行くのか?』

池上彰著 NHK出版新書

テレビでおなじみの池上彰さんが、東京工業大学で行った授業を元にして書かれた1冊です。序章にある「すぐに役立つことは、すぐに役に立たなくなる」という文章が、非常に強烈に印象に残っています。だからこそ、すぐに役に立たなくても長い目で見れば役に立つかもしれない「教養」に今一度注目しようというのが、本書の目的のようです。つい最近読んだ本なので大学は卒業した後に読んだ本ではありますが、「どうして大学では専門的な分野以外の科目 (一般教養) も学ばなければならないのか」という1つの答えだと思いますし、そう考えると「自分も大学に行って良かったな」と思えるきっかけになった本です。



